

利賀村史

1

古代・自然
中世・原始



利賀谷遠景 庄川合流点（杉谷峠より）



水無平の水芭蕉群生地



利賀村の遺跡鳥瞰図



矢張下島遺跡 全景（南）



矢張下島遺跡 水さらし場遺構（北東）



矢張下島遺跡 積穴住居址 SI01（東）



矢張下島遺跡 出土石製品



平村田向遺跡
石鋸



坂上地内
御物石器



岩渕久保平遺跡
環状石斧



岩渕久保平遺跡
三頭石斧



細島西ノ平遺跡
線刻石器



上島遺跡
石棒

西勝寺遺物



大豆谷八幡宮 僧形八幡神像と隨身像・狛犬・小神像



五谷山西勝寺

聖闇御傳書

テ子 嘉慶
喜山 信代
中のり 大方川
上庄 須波
うき 月
くみ さくら
まきの 京清れ
六助 月
あきや 不動後
ひと せん
く三 信代
みの 信代
のな 信代
のと 信代
えふ 信代
大田 信代
若 信代

聖闇御傳書
三

応永20年東寺百合文書 「なしひが」



天文6年裏書 「利賀」
初見



永正10年裏書 「五ヶ山」初見

発刊のことば

利賀村長

米澤博孝

村民が久しく熱望していた『利賀村史』の編纂が完了し、発刊の運びとなりました。

利賀村史の編纂事業は、平成十一年三月に『利賀村史 2 近世』を出版した後、編纂委員会長米澤康氏の体調がすぐれなかつたこともあつて中斷していました。その後、村民の願いも空しく、米澤氏は還らぬ人となつたのです。

砺波地域の八町村は今秋に合併し、新たに南砺市が誕生します。その前に、『利賀村史』を完結したいという思いから編纂事業を再開しました。

幸いに、砺波市の佐伯安一氏に監修と編纂委員会長を引き受けていただき、また編纂委員にも各分野の第一人者の先生方を迎えることができました。監修者をはじめとして、編纂委員・執筆者各位のご尽力に心からお礼を申し上げます。

本書では、時にやさしく、時に厳しく、我々の祖先を見守ってきた利賀村の大地と

自然の紹介に始まり、土器や石器で生活を営んだ縄文時代から、信仰に支えられた中世の時代までを紹介しています。

『利賀村史』から、厳しい自然に耐えて今日の利賀村の基礎を築いた先人の苦労の一端を読み取っていただければ幸いです。

平成十六年十月

例　　言

一、利賀村史は三分冊から成り、本書は自然編（第一章）と原始・古代編（第二章）、中世編（第三章）を収録している。

一、本文中、敬称は原則として略した。また、故人についても、その旨の明記はしなかった。

一、引用資料の字体は、原則として常用漢字に改めた。

一、史資料名は、原則として刊本を「」、その他を「」で表した。

一、出典および所蔵はできる限り明記したが、執筆者・利賀村史編纂室・利賀村教育委員会・利賀村役場の撮影・所蔵にかかる写真については表記を略した。

一、地図類は原則として北を上にした。

一、第二章および第三章第四節の遺物実測図・写真は、原則として縮尺四分の一とした。

一、第二章の図版では、磨製石斧で蛇紋岩製のものは、断面図に網かけをした。

一、「大字仙納原村」は大正二年の字名変更により「仙野原」となった。しかし、同地内の遺跡は現在も「仙納原村遺跡」として登録されているので、第二章ではこの名称で統一した。

利賀村史 1 —古代・原始 —中世— 目次

口 絵

発刊のことば

例 言

利賀村長

米澤 博孝

第一章 歴史の舞台——郷土の自然——

第一節 地形と集落

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| はじめに (三) | 地形の概要 (四) | 集落の分布 (五) | 利賀川流域 (五) |
| 百瀬川流域 (八) | 庄川流域 (九) | 山と谷 (九) | |

第二節 地 質

- 概要 (一〇) 古期岩類 (一〇) 新第三紀層 (一一)
- 南に古く北に新しい北陸の地質 (一一) 断層と地溝 (一一)
- 利賀村南部・中部の地質 (一二) 利賀村中部の地質 (一三)
- 利賀村北部の地質 (一四)

第三節 気 候

- 概要 (一五) 気温 (一五) 雨・降水量 (一五) 雪 (一七)

雪崩と表層雪崩 (一七)

第四節 動 物—生き物と共生—

- 一 利賀の動物の特徴 (一八)
- 二 気候と動物との関係 (一八) 地形と動物との関係 (一九)

- 一 豊富な動物相 (一九)

1	自然環境と食物連鎖	110
2	植生分布帶と動物 (二二) 利質の動物と生態的地位 (二二)	113
	多様な動物と分布	
	哺乳類 (二三) 鳥類 (二七) 爬虫類 (三二) 両生類 (三六) 昆虫 (三八)	
	淡水魚類 (四三) 陸産貝類 (四四)	
三	学術上貴重な動物	四四
	ニホンカモシカ (四五) ヤマネ (四五) カワネズミ (四六) イヌワシ (四七)	
	クマタカ (四七) ナガレタガガエル (四八) クロシジミ (四九)	
四	自然環境保全地域の動物	五〇
1	山の神自然環境保全地域	五〇
	哺乳類 (五〇) 鳥類 (五一) 両生・爬虫類・陸産貝類 (五一) 昆虫類 (五一)	
2	谷内谷自然環境保全地域	五三
	哺乳類 (五四) 鳥類 (五四) 両生・爬虫類 (五四) 昆虫類 (五四)	
第五節	植 物—分布とその特徴—	五六
一	植生の概観	五六
	生育環境と植生 (五六) 垂直分布 (五七) 地勢別分布 (五九)	

二 村内各地域にみられる植物	六二
1 口山地区	六三
下原の植物 (六三) 栃原の植物 (六三) 北原の植物 (六四) 長崎の植物 (六五)	
大牧の植物 (六六) 仙野原の植物 (六七) 庄川町との隣接付近の植物 (六七)	
脇谷・栗当付近の植物 (六七) 高沼付近の植物 (六八) 草嶺付近の植物 (六九)	
2 中央地区	六九
押場・北豆谷・大豆谷の植物 (六九) 利賀・岩測付近の植物 (六九)	
3 上利賀地区	七〇
上畠から坂上までの植物 (七〇) 田の島・中口付近の植物 (七一)	
千束・桂尾付近の植物 (七一) 大勘場の植物 (七二)	
水無岩長谷入り口付近の植物 (七二) 旧水無分校付近の植物 (七三)	
水無カラ谷入り口付近の植物 (七三) 水無アテビヨウ谷の植物 (七三)	
4 百瀬地区	七四
柄折峠の植物 (七四) 柄折峠から一の瀬までの植物 (七四)	
一の瀬橋付近の植物 (七五) 菅沼ダム付近の植物 (七五) 菅沼橋付近の植物 (七六)	
島地神明宮付近の植物 (七六) 中村の植物 (七六) 少年自然の家付近の植物 (七七)	
竜口谷川と百瀬川の合流地点の植物 (七七)	
三 特異な植物群落	七八

1 水無平の湿性植物	七八
位置 (七八)	植生 (七九)
2 小アテビヨウ湿原の植物	八二
位置と植生 (八二)	
3 金剛堂山の高山植物	八四
地勢 (八四)	山腹の植生 (八五)
	山頂付近の植生 (八七)
4 山の神自然環境保全地域	八四
位置と環境 (八八)	植生 (八九)
5 谷内の谷自然環境保全地域	九三
湿原の成因 (九三)	湿原の構成 (九四)
四 山村の生活と植物	九五
生業への利用 (九五)	食用とされてきた植物 (九五)

第二章 郷土のあけぼの（原始・古代）

第一節 氷河期を生きた人たち	一一一
一 旧石器時代	一一一
二 立野ヶ原石器群	一一三
第二節 定住の始まり	一一五
一 縄文時代	一一五
二 遺跡の分布と立地	一一一
遺跡の分布	一二二
土器の使用	一二五
弓矢の使用	一一九
気候の変動	一一九
安定した住まい	一一〇
仙納原遺跡	一二五
北豆谷遺跡	一二七
大豆谷遺跡	一二七
矢張下島遺跡	一二九
利賀東山遺跡	一二九
岩渕久保平遺跡	一二九
岩渕浅生谷遺跡	一三一

北島遺跡（一三一）	細島西ノ平遺跡（一三一）	細島宮平遺跡（一三五）
上畠遺跡（一三五）	坂上望ヶ原遺跡（一三八）	坂上御坊平遺跡（一三九）
坂上赤谷遺跡（一四一）	坂上館遺跡（一四一）	阿別當遺跡（一四一）
西勝寺藏の遺物（一四二）	遺跡の発掘調査（一四四）	
三 地域を越えた交流 一四六		
石器材料（一四六）	蛇紋岩（一四六）	黒曜石（一四七）
正珪岩（一五〇）	ヒスイ製品（一五一）	ヒスイ製大珠（一五一）
トチムキ石（一五五）	三頭石斧・環状石斧（一五九）	
四 信仰に支えられた生活 一六一		
祭祀具（一六一）	御物石器（一六三）	石冠（一六六）
独鉛石（一七一）	石棒・石刀（一七四）	石鋸（一七〇）
第三節 生活環境の変化 一七八		
一 弥生時代から古代まで 一七八		
二 定着しなかつた稻作 一七九		
三 数少ない古代遺跡 一八〇		

第四節 発掘された遺跡

一八二

一 高沼遺跡

一八二

立地（一八七） 発掘調査（一八二） 出土遺物（一八三） まとめ（一九五）

二 岩渕久保平遺跡

一九五

はじめに（一九五） 立地（一九六） 発掘調査（一九六） 出土遺物（一九七）

三 矢張下島遺跡

一三九

はじめに（一二九） 立地（一二九） 繩文時代中期の遺構・遺物（一二九）

竪穴住居址（二三三一） 繩文時代後・晚期の遺構・遺物（二三三七）

掘立柱建物址（二三七） 環状遺構と屋外炉（二三九）

水さらし場遺構（二四一） 貯藏穴（二四六） 特殊な石製品（二五〇）

中・近世の遺構・遺物（二五九） まとめ（二六一）

第五節 考古学研究の先達

一六一

一 米澤安立と考古学
二 徴古室記録

一六二
一六四

三 著名研究者との親交

二六七

第三章 真宗と五ヶ山（中世）

第一節 本願寺と五ヶ山

一 緯如と瑞泉寺 二七一
法然門流と越中（二七一） 時宗（二七三） 水橋門徒（二七四）

日野家と本願寺（二七五） 瑞泉寺建立（二七八）

二 蓮如の吉崎下向 二七九

緯如後の瑞泉寺（二七九） 蓮如の吉崎下向（二八一） 蓮如と越中（二八三）

三 赤尾道宗 二八五
道宗と蓮如（二八五） 本覺寺門徒の道宗（二八七） 道宗と御文（二九〇）

行徳寺（二九七）
和田本覚寺（二九九） 万法寺（三〇四） 専光寺系（三〇五） 常樂寺系（三〇八）

慶恩寺（三一三） 瑞泉寺と光教寺（三一四） その他（三一六）

五ヶ山への本願寺教線 二九九

第二節 十日講と本願寺勤仕

三一八

一 実如と五ヶ山

三一八

実如葬礼と非時頭人（三一八） 宗主年忌と五ヶ山（三一〇）

二 五ヶ山と本願寺勤仕

三一一二

証如と五ヶ山（三三二） 五ヶ山の位置（三一六） 糸と綿（三一八）

戦乱時の白川・越中往来道（三三〇）

三 五ヶ山十日講

三一一四

十日講（三三四） 十日講と本願寺（三三六） 十日講と構成員（三四一）

第三節 戦国期の五ヶ山

三四七

一 顯如と織田信長

三四七

顯如（三四七） 本願寺と武田氏の盟約（三四八） 上杉謙信の越中進攻（三四九）

椎名の上杉方より離反（三五二） 織田信長と石山合戦（三五四）

越中からの石山支援（三五六）

二 教如の五ヶ山下向伝承

三五七

索 年 表
引

あとがき

第四節 中世の考古資料 三七六

- 珠洲陶の普及 (三七六) 石塔類 (三七七) 上畠遺跡の中世陶器 (三七八)
坂上東山遺跡の珠洲陶 (三八一) 長崎遺跡の珠洲陶 (三八一)
伝大野権兵衛塚と石塔 (三八二) 大豆谷比丘尼屋敷五輪塔と経塚 (三八六)
大豆谷八幡宮の神像 (三九〇)

顯如と教如 (三五七) 教如と五ヶ山 (三五九)

三 戦乱と五ヶ山 三六一

梨と利賀 (三六一) 佐々成政と五ヶ山 (三六四)

四 西勝寺 三六九

西勝寺の開基と中興 (三六九) 五尊の下付 (三七一)

